

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	福島こども支援・八王子
支援対象者・エリア	福島県-
企画開催地	東京都町田市立大地沢青少年センター
企画名称	2019 夏休み ふくはち親子交流合宿
実施期間	2019年8月5日（月）～8（木）3泊4日

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

震災直後、放射能の影響で自由に外遊びができない子供達や、家族の健康について苦しみ悩みながら日々を送る母たちの現状を知りました。その後2012年春より子供達の自然遊び、親子の交流合宿という形でこれまでに13回保養合宿を開催してきました。

今年度は福島市、郡山市、須賀川市、いわき市などから、大人17名、子ども34名の計51名の親子を、町田市大地沢青少年センターに招き、大地沢で外遊びを中心ウェルカムコンサートや紙芝居などのアクティビティの他、保護者向けには学習会・交流会・ケアプログラム、を開催し交流を深めました。

よちよちの1歳児の赤ちゃんから小学生高学年まで、プレーパークという野外での自然遊びを中心に、沢でサワガニとりや生き物探し、泥だんごづくりなどスタッフの学生さんたちと一緒に夢中になって遊びました。夜は屋外で星空観測会、施設内ではくるみボタン作りなどのワークショップ、落語などを楽しみました。除染が進み安全になったと言われている福島ですが、近隣の道端ですら不安を抱えたまま遊ばせることのストレスが大きく、大池沢で思い切り川遊びができたことが、福島で暮らしていく励みにあるとの感想が多かったです。また事故後にお子さんを出産してから放射能の影響が心配になり参加される親御さんが増えており、初めての参加のお母さんからも、こういう場で親同士のつながりができたり、様々な情報を得ることができて助かるとの感想が多かったです。まだまだ不安を抱えた親御さんたちは孤立しているようで、保養を続けて欲しいとの声が多いです。今回もたくさんの学生さんたちがボランティアに参加してくれ、子供達も大喜びでした。原発事故当時小学低学年でほとんど事故のことや福島の今の現状について知らない学生さんたちも、福島のお母さんや子供達と接することで、様々な気づきを得る機会になったようです。

活動の様子（写真など）





※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。